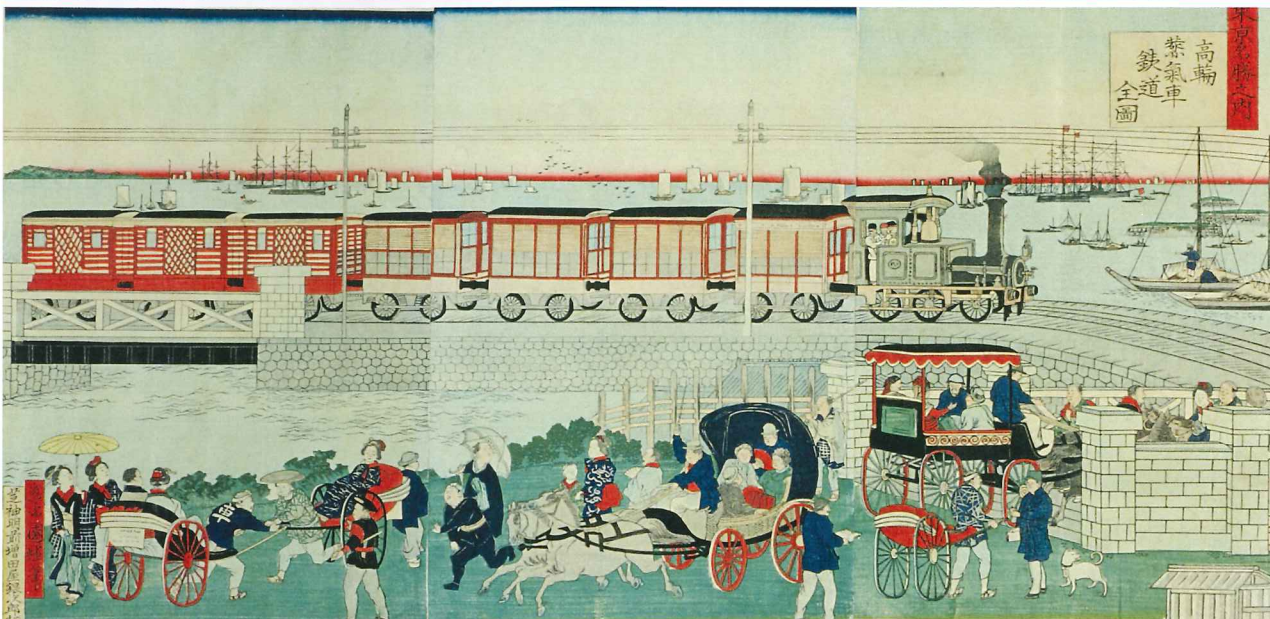




もくじ

「文明開化～変わりゆく浮世絵の景色たち」
..... P1・2・3
活動報告ピックアップ! P4
展示予告/ONIKAGE 学芸員のページ P5
浮世絵こぼれ話/編集後記 P6



二代歌川国輝「東京名勝之内 高輪蒸気車鉄道全図」制作年不明 (GAS MUSEUM がす資料館 所蔵)

文明開化 変わりゆく浮世絵の景色たち

会期 2017年3月10日(金)～4月16日(日)

藤澤浮世絵館では、浮世絵を美術作品としてだけでなく、郷土の歴史や文化を再発見するための資料ととらえ、収集し展示活用しています。本展では、日本の歴史や浮世絵の歴史においても、大きな変革期となった幕末から明治時代にかけて描かれた浮世絵を中心に展示しました。

文明開化により浮世絵に描かれる風景は、異国の人々やレンガ造りの建物、ガス灯、蒸気機関車など近代文明を象徴するものへと大きく変わっていきました。浮世絵に描かれた景色や人々の姿を通して、東海道の

宿場として栄えた藤沢にも訪れた文明開化に思いを馳せてみたいと思います。

4つの展示コーナーのみどころ紹介

1 「東海道五十三次コーナー」

明治8年(1875)に刊行された三代歌川広重「東海名所 改正道中記」を中心に展示しました。文明開化により変わりゆく東海道の景色をお楽しみください。

同シリーズの「藤沢」では、遊行寺橋が馬車や人力車の通行に対応するために西洋式の平らな橋へと架け替えられています。

くらべてみよう!

江戸と明治の景色のちがい

江戸



弧を描く太鼓橋

土留め

初代広重「東海道五拾三次之内 藤沢」
天保3-4年(1832-1833)

明治



建物に窓が
設けられている

石垣

人力車も通れるように
平らになった橋

三代広重「東海名所 改正道中記 藤沢」
明治8年(1875)

2 「藤沢宿コーナー」

「最後の浮世絵師」と呼ばれたこばやしきよ親や、井上安治、戦前まで活躍した版画家の山岸やまぎし主計などの作品を展示しました。明治期の浮世絵や新版画ならではの味わいと近代の景色をお楽しみください。

3 「江の島コーナー」

藤沢市の所蔵作品の中から「七里ヶ浜からみた江の島」を描いた浮世絵を、歌川広重の作品を中心に多数展示しました。

4 「企画展示コーナー」

「文明開化の景色とヨコハマ」と題して、開港後の横浜や人々を描いた浮世絵を展示しました。横浜は明治5年(1872)には日本初のガス灯が設置されたほか、新橋駅-横浜駅(現・桜木町駅)間に鉄道が開通するなど、一気に文明開化の中心となっていきました。また、横浜を鳥瞰的に描いた大判絵図も展示しました。場面を切り取るように描いた浮世絵作品とは異なる角度から、まちの移り変わりをご覧ください。

探してみよう!

文明開化の象徴ってどれ?



鮮やかな赤
(新しく輸入された
人工顔料や染料)

洋傘

街灯

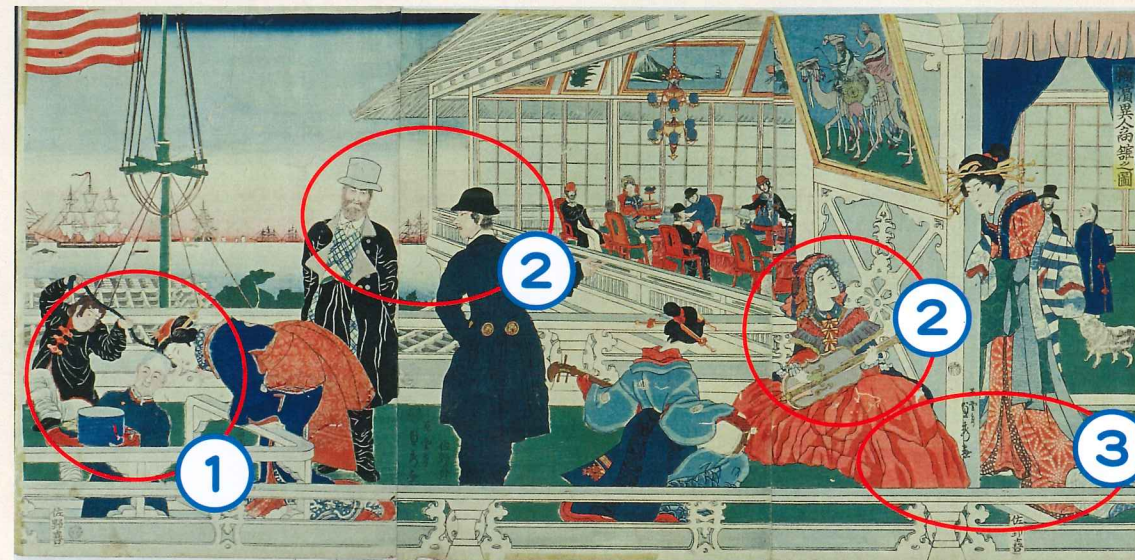
鉄製の橋

馬車

三代広重「横浜吉田橋ヨリ伊勢山太神宮遠景」明治3年(1870) (GAS MUSEUM がす資料館 所蔵)

もっと深読み!

作品鑑賞のポイント



歌川貞秀「横浜異人商館之図」文久元年(1861) (GAS MUSEUM がす資料館 所蔵)
<外国人居留地に開設された商館の2階の社交場を描いています。>

1 < 辮髪姿の中国人 >

横浜が開港すると、欧米諸国の商人たちの多くは中国人を伴い、居留地に商館を開きました。中国人は漢字を用いて日本人と筆談ができたので、商売の取引では不可欠な存在でした。

うしろにいる子どもが辮髪を引っ張っています。貞秀も特徴的な髪型に注目したようです。



2 < 浮世絵は想像の世界! ? >

写實的に描かれているようにみえる作品ですが、実は貞秀の想像や印象により描かれています。西洋人の男性は屋内であるのに帽子をかぶったままです。右の西洋人の女性は、バイオリンをまるで三味線のように抱えて三味線のバチを手に持っています。また、室内の手摺の文様や障子のような窓の造りなど、一言で洋風建築とは言い難い描き方です。このような事から、浮世絵師は様々な情報を組み合わせ、作品を構成したものと考えられます。

3 < 陰影の技法 >

西洋人の女性のドレスには、彩色の濃淡により陰影の表現が施されていますが、日本人の着物には細かな文様が施されてはいても、陰影はつけられていません。西洋人は西洋風に描き、日本人は日本風に描くという細かな区別が見られるのが興味深い点です。

本展では、藤沢市の所蔵作品に併せて、文明開化の時代を描いた浮世絵を多く所蔵する「GAS MUSEUM がす資料館」のご厚意によりお貸しいただいた作品も展示しています。

ガスミュージアム
GAS MUSEUM がす資料館

ガスミュージアムは、東京ガスの事業の歴史とくらしとガスの関わりを紹介する歴史博物館です。私たちの暮らしと共にあったガスの歴史を赤レンガの洋館の中でゆっくりお楽しみいただけます。

所在地：東京都小平市大沼町4-31-25
電話番号：042-342-1715
開館時間：10時～17時
休館日：月曜、年末年始
(月曜日が祝日および振替休日の場合は翌日が休館)

入館料：無料
駐車場：30台(無料)



浮世絵館オリジナルの版木で多色ずりを体験!



浮世絵館では、学芸員が彫った版木を使って様々なワークショップを開催しています。複数の色を使った「多色ずり体験」や、すった絵を工作して「うちわ作り」や「ポチ袋作り」を行いました。

また毎週土曜・日曜の13時～17時の間で、版画のすり体験を行っています!

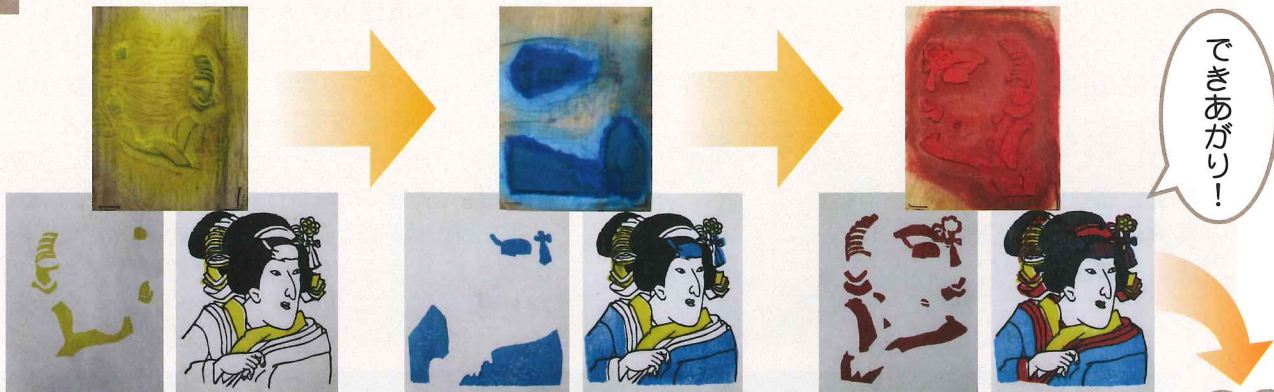
「多色ずり体験」で使った版木で「浮世絵ができるまで」をご紹介します。

1 絵の輪郭にあたる部分をすります。これを「主版(おもはん)」と言います。



良く見ると、「一」と「」の印が彫ってあります。これを「見当(けんとう)」と言います。ここに紙を合わせ、色版を重ねてもずれないようにします。

2 色版を重ねていきます。浮世絵は薄い色や面積の広い部分からすっていきます。



できあがり!

版木の元になった作品



歌川国貞(三代豊国)「東海道五十三次の内 平塚 萬長娘おこま」

出張! 浮世絵すり体験



館外へ出張しての浮世絵すり体験も行いました!

<開催一覧>

- 藤沢市民まつり(秋葉台会場) 2016年9月24日(土)・25日(日)
- 「手で触れて見る彫刻展」(藤沢市民会館第1展示集会ホール) 2016年10月27日(木)～30日(日)
- みんなの消費生活展(明治市民センター) 2016年10月29日(土)・30日(日)
- 東京ガスの「ガス展」(東京ガスライフバル湘南藤沢店) 2016年11月5日(土)・6日(日)
- 辻堂駅開設100周年事業(辻堂神台公園) 2016年11月26日(土)・27日(日)

ワークショップ

<開催一覧>

- 「ポチ袋をつくってみよう」 2016年12月18日(日)



講座

<開催一覧>

- 学芸員ミニ講座「双六で楽しむ東海道の旅」 2017年1月9日(月・祝)・15日(日)
- 学芸員ミニ講座「浮世絵鑑賞の基礎の基礎」 2017年2月19日(日)・25日(土)

今後の講座につきましては、「広報ふじさわ」や藤澤浮世絵館のHPまたはfacebookにて随時お知らせします!

展示予告

2017年4月～7月

◆「おまちかね 広重の東海道」

2017年4月21日(金)～5月28日(日)

数ある歌川広重の東海道五十三次シリーズの中から「鳶屋版」を、日本橋から袋井まで展示します。ほかにも「白浪五人男」や「鎌倉権五郎(「暫」)」など歌舞伎を題材とした浮世絵を展示します。



歌川広重「東海道 五十三次之内 藤沢」



歌川国貞「白浪五人男」

◆「国貞の東海道と江の島」

2017年6月2日(金)～7月17日(月)

前回に続き、歌川広重「鳶屋版」の見附から京までを展示します。また、歌川国貞による「東海道五十三次(美人東海道)」や「役者見立東海道」、江の島を題材とした浮世絵など、華やかな国貞ワールドをお楽しみください。



歌川広重「東海道 五十三次之内 吉田」



歌川国貞「東海道 五十三次之内 品川之図」

※展示期間・内容は変更になることがあります。最新情報は藤澤浮世絵館ホームページをご覧ください。



ONIKAGE 学芸員のページ 浮世絵を伝えること②

私が展示室にいますと、時々、「今、展示されていない浮世絵は誰が管理しているの?」と聞かれることがあります。今日は、浮世絵の守り人である「学芸員」の仕事についてお話ししたいやしょう。

さて、この「学芸員」ってえのはどんな仕事をしているのかと申しますと、主に、資料(浮世絵や史料)の①研究・調査、②収集・展示・教育普及、③保存・管理、などがございます。

浮世絵館には、美術史が専門の学芸員と、史学が専門の学芸員がおります。浮世絵は、絵画としての美しさだけではなく、江戸の人々の暮らしや思想などなど、情報がてんこもり! ですので、それぞれの分野から「読み解く」ことが重要なのでございますよ。もちろん、皆さまにそれをお伝えすることも、展示す

るだけでなく後の世代に引き継ぐことも、大切な仕事です。

ところで、学芸員の活躍の場には、色々な種類がございます。美術館だけでなく、科学博物館や、歴史博物館、なんと、動物園、水族館、植物園も博物館の一種なのでございますよ。「大切なもの」は、いろんなカタチで存在しておりますなあ。



浮世絵のぼれ話 02

JR辻堂駅北口に隣接する藤澤浮世絵館から、北へ15分ほど進んだところに、四ッ谷の交差点といわれる国道1号のバイパスと旧藤沢宿方面から西に向かう旧東海道との合流点があります（「四ッ谷」信号）。この辺りの地名は四ッ谷といって、江戸時代から集落をなし、立場（宿場と宿場の間にある休憩地）がおかれていました。また、この場所は東海道から大山道（田村通り大山道）が分岐するところ（追分）でもあったので、大山詣の人々で賑わい、東海道の名所の一つでもありました。



図1

図1は歌川広重の東海道シリーズの1枚で、「東海道七十三次之内 藤沢」（鳥屋版）です。表題には「五十三次之内 藤沢」とありますが、これは四ッ谷の立場の風景を描いたものです。図の右端に「四ッ谷の立場」、左端に「追分」と記されています。

当時、東海道で「四ッ谷」というと、こ

の場所を指したため、鶴屋南北作「東海道四谷怪談」の舞台として考えられていたこともありました。



図2

図2は歌川国芳「小倉擬百人一首大中臣能宣朝臣（相州四ッ谷の伝説）」です。詞書に「昔相州四ッ家の辺りに神谷某といへる浪士の妻、夫の為に非命に世を去り、一念種々の祟りをなせしが・・・（昔、相模国の四ッ谷の辺りにいた神谷某という浪士の妻が、夫に欺かれ不慮の死を遂げた後、ひたすらに様々な祟り事を起こし・・・）」とまことしやかに記されています。江戸の四ッ谷が舞台となった「四谷怪談」が、藤沢の四ッ谷で起こった事だと信じる人もいたようです。

なお、図1の左端に描かれている不動明王像を戴いた大山道標は、現在も地域の方々により、大事に守られています。

編集後記

日本中から春の花のたよりが届けられ、お出かけがウキウキ楽しい季節になりましたね。「浮世絵館だより vol.2」はいかがでしたでしょうか。お散歩がてら藤澤浮世絵館にお越しください！

編集・発行：藤沢市藤澤浮世絵館

【住所】〒251-0041 神奈川県藤沢市辻堂神台2丁目2番2号ココテラス湘南7階

【電話】0466-33-0111 【FAX】0466-30-1817

【URL】<http://www.fujisawa-ukiyoekan.net/>

【開館時間】10:00～19:00（入館は18:30まで）

【休館日】月曜日（祝日、振替休日の場合は翌平日）

※展示替え等で臨時休館する場合があります。



facebook：藤澤浮世絵館
公式アカウント

←このマークが目印です。「いいね!」
お願いします。